

朗読CD—日本の名作 太宰治 各話紹介

Disc1 ヴィヨンの妻

初出：『展望』15号（3月号）1947.3.1 92～115頁

紹介：泥酔した夫が深夜に帰宅すると、そこに飲食店を営む夫婦があらわれて……。
だらしなく借金や浮気を続ける詩人の夫を見守り、妻が優しく、たくましく世間を生きていく。

Disc2 桜桃

初出：『世界』29号（5月号）1948.5.1 60～64頁

紹介：自己と家庭（妻、子供）との関係性に悩む姿があらわされた太宰晩年の作品。

Disc3 女生徒（上）

Disc4 女生徒（下）

初出：『文學界』6巻4号（4月特大号）1939.4.1 81～114頁

紹介：14歳の女生徒による一人称独白。朝起床してから晩に就寝するまでの一日を多感な思春期の少女の視点で綴る。

● 作家紹介

太宰治（だざい・おさむ）

明治42年（1909年）6月19日～昭和23年（1948年）6月13日

津軽有数の大地主の家に生まれ、父は貴院議員、兄は衆院議員を務めた。青森中時代から作家を志望し、弘前高を経て、東大入学後、井伏鱒二に師事する。東京帝国大学在学中は共産主義運動に関係したが脱退、自殺未遂事件をおこした。昭和8年第一作「思ひ出」に続いて「魚服記」を発表、その後「猿面冠者」「ロマネスク」「道化の華」などを発表。10年佐藤春夫らの日本浪漫派に参加。同年都新聞の入社試験に落ちて自殺を図る。また「逆行」が第1回の芥川賞次席になり、作家としての地位をかためる。11年作品集「晩年」を刊行するが、同年芥川賞の選に洩れ再び自殺未遂。14年結婚、以後「富獄百景」「走れメロス」「新ハムレット」「津軽」「お伽草子」などを発表し、15年には「女生徒」で透谷文学賞を受賞。戦後、22年に代表作となった長編小説「斜陽」や「人間失格」「ヴィヨンの妻」などを相次いで発表した。23年6月遺稿「グッド・バイ」を残して山崎富栄と共に玉川上水で入水自殺を遂げた。

無頼作家として人気があり、命日の桜桃忌には多くのファンが集まる。「太宰治全集」（全12巻、筑摩書房）がある。（日外アソシエーツ「whoplus」より抜粋）

参考：日外アソシエーツ「whoplus」

山内祥史編著『人物書誌大系 7 太宰治』（日外アソシエーツ、1983刊）